

キレンジャク



杉本邸のガレージ奥の窓からふと外を見ますと、レンジャクがピラカンサの実をついばんでいるではありませんか。キレンジャクだとすぐに判明できる距離でした。ガラス越しだったので、警戒されていませんでした。数回シャッターをきりましたが、逆光線なので色彩ははっきりしませんが、シルエットはまぎれもなくレンジャクでした。シルエットがほとんど同じで少し赤っぽいのがヒレンジャクとして区別されます。判別のポイントは尾羽根の先が黄か赤かなのですが、腹部の色がやや黄色っぽいほうがヒレンシジャクなので、しっぽの先での判別がわかりやすいのです。

群れていることの方が多いのですが、この鳥は単独行動でした。窓から見える範囲に仲間の姿は見当たりませんでした。ヤドリギの実を好み、消化器官をくぐらせてゼリー状の粘着便に種をまぶして樹木の枝にくっつけまして種を媒介することでもよく知られている鳥でもあります。ヤドリギとの共生関係にあるわけです。このピラカンサの他にもイボタノキやナナカマドの実もついでみえます。繁殖はユーラシア大陸の夏に涼しいところのようです。札幌には冬鳥として渡ってくるのです。冠羽がはっきりして、色彩的にも美しい鳥であります。

杉本邸のガレージは当協会の木工チームの作業場なのです。冬は月に2回、夏は月1回と日程をくんでおりまして、ここに集まり、各自好みの作品を作

って楽しんでおります。コンセプトは除・間伐材の有効活用なので、森の中で腐れを待つだけの境遇から少しでも永く炭素を固定しておいていただきたいとの願いを込めての作品づくりなのであります。

3月は巣箱を約100個作りました。昨年から始めまして2度目です。4月1日に札幌市市有林の澄川に約半分、その他に残りをかけることにしております。

この日は前回の木工の日に通りがかりの人に庭木のイチイの植木が引越しのために要らなくなるので木工の材料として使って欲しいとの申し出があり、どれどれと拝見しに行ったところ、出来れば生かして欲しいということになり、私も見てきましたら3本ものなかなか立派なイチイなので、これなら北海道神宮社務所の窓の目かくしに役立つかなと思いましたので、神宮に出向きましてお願いしましたところ、OKとなりまして移植することになり、その作業の日でした。作業は神宮側のプロと一緒にプロの仕事を見習いかつご指導をいただきまして、根堀から根巻きまでを实践することになった次第でありました。

